

氏名	沖本 英子
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第473号
学位授与年月日	平成29年3月24日
審査委員	主査 教授 森田 栄伸
	副査 教授 原田 守
	副査 教授 関根 浄治

論文審査の結果の要旨

近年、本邦で増加傾向にある好酸球性食道炎の診断には病理学的に食道好酸球浸潤を証明することが必須であるが、内視鏡像の特徴や食道内の好酸球浸潤の分布などは十分には明らかでない。申請者らは、好酸球性食道炎の内視鏡所見を詳細に検討するとともに、最も高頻度に認められる縦走溝という所見に注目し、内視鏡所見と好酸球浸潤との関連、治療効果による変化を明らかにすることを目的として本検討を行った。

島根大学医学部附属病院で食道好酸球浸潤と診断され、内視鏡所見の評価が可能であった70例を対象とした。また、縦走溝と鑑別が必要な縦走する粘膜傷害をきたす逆流性食道炎症例108例を対照群とした。縦走溝は70例中、63例(90%)に認められた。縦走溝は食道の下部から上部まで広範囲に放射状に存在し、縦走する襞の間の谷の部分に認められた。この特徴は逆流性食道炎で認められる粘膜傷害とは全く異なるものであった。縦走溝と隣接する峰の部分から生検を行い、浸潤好酸球数を比較したところ、高倍率視野あたり15個以上の好酸球浸潤を認めた症例は有意に縦走溝の部分で多かった。さらに、プロトンポンプ阻害薬(PPI)投与後の内視鏡像の評価を行い、PPIに反応する症例では全例で縦走溝が消失したが、PPIに反応しない症例では半数以上で縦走溝の残存を認めた。これらの結果は、好酸球性食道炎の診断や治療効果の判定における新たな知見を示したものであり、臨床的に意義の高い有用な成果と考えられる。